

野迫川村が共同物流を主導し、住民生活の質の向上を目指す

協議会名:野迫川村地域物流協議会

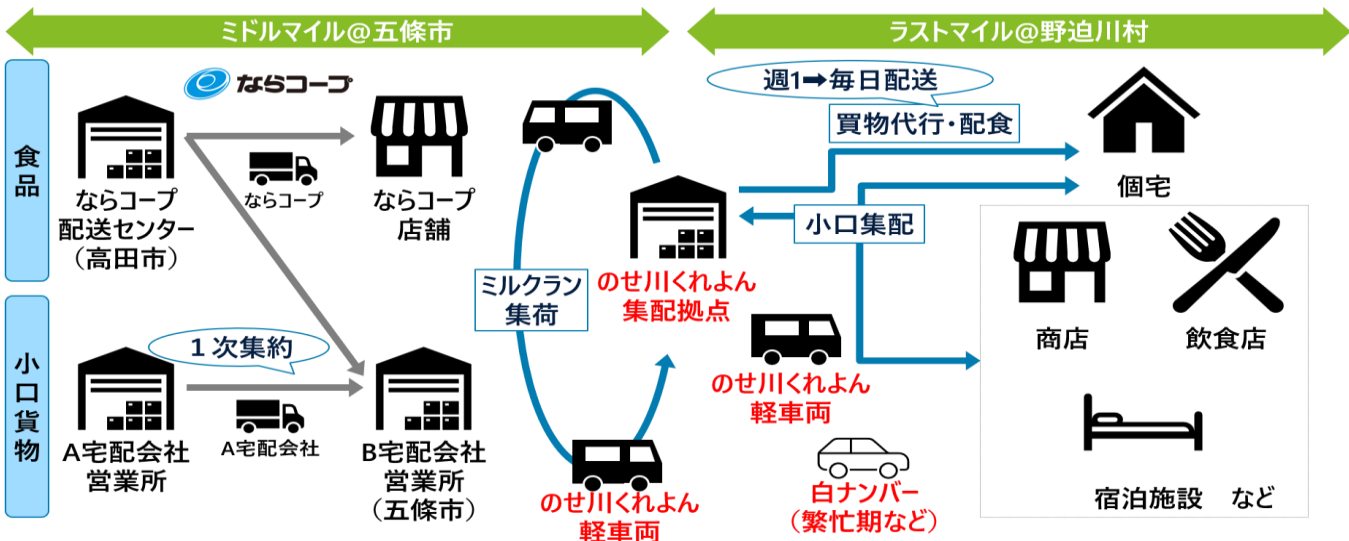
協議会構成員
野迫川村、一般社団法人のせ川くれよん、ならコープ、セイノーホールディングス

【事業実施背景】
人口減少と高齢化が進む本村は、地理的制約の厳しい山間地に集落が分散しており、物流の維持が困難な状況である。現在、複数の運送会社がそれぞれ少量の荷物を配送しているが、この高コストな個別配送が続くと、将来的に配達回数が減り、住民生活の質の低下や地域衰退に繋がるおそれがあるため、官民連携による新たな物流モデルの構築が急務となっている

事業内容

Point


第3セクターである「のせ川くれよん」の新規事業として、軽貨物事業を立ち上げ、ならコープ及び宅配事業者との共同物流を推進し、物流の効率化を目指す。また、ならコープとの連携においては、配達回数を増やすなどの物流のサービスレベル向上に伴う、住民生活の質の向上も目指す



想定事業実施効果

【物流効率化における目標数値】

		現状	共同物流実施後 (短期、標準月)	改善内容
物流基礎 データ	車両台数 (台)	4台	1台	3台の車両台数削減
	ドライバー稼働時間 (時間/日)	17時間	6時間	1日11時間削減
	車両総走行距離 (km/日)	689km/日	245km/日	1日40%の走行距離削減
配送効率	積載率 (%)	46%	78%	32%の積載率改善
	配送密度 (個/km)	0.14個/km	0.29個/km	約2倍の配送効率改善
	配送密度 (個/時間)	5.7個/時間	11.5個/時間	約2倍の配送効率改善
サステナビリティ	CO2排出量 (t-CO2)	24.0 t-CO2	8.5 t-CO2	40%のCO2排出量削減

※ミドルマイル：物流拠点や配送センター、倉庫の間をつなぐ中間物流
※ミルクラン：各工場・倉庫を巡回し、貨物を集荷する方法